

2000 年 11 月 発行

作成者： 中野 賢 (<ken-na at ascii.co.jp>) & 富樫 秀昭 (<hideak-t at ascii.co.jp>)

1 この文書について

この文書は、pL^AT_EX 2_ε<2000/11/03> 版について、前回の版 (<1999/08/09>) からの更新箇所をまとめたものです。それ以前の変更点については、plnews*.tex や Changes.txt を参照してください。L^AT_EX レベルでの更新箇所は、L^AT_EX に付属の ltnews ファイルを参照してください。

2 前バージョンからの主な修正箇所

- 配布形態を teT_EX ライブラリの形式に変更した。
- nidanfloat パッケージを付け加えた。
- \text.. コマンドの左側に \xkanjiskip が入らないのを修正 (ありがとう、乙部@東大さん)
- tarticle, tbook, treport で、文頭の全角開き括弧類が下がる現象に対処。adjustbaseline を修正しました。
- L^AT_EX<2000/06/01> に対応した。

3 teT_EX ライブラリ形式での配布

T_EX Live という TUG で配布している T_EX システムを集めた CD-ROM があり、TUGboat 購読者にはこれが TUGboat と一緒に定期的に配布されています。teT_EX (Thomas Esser による) は T_EX Live 用に集められた T_EX のことです。

teT_EX の TDS (T_EX Directory Structure) に従った配布物には、ポーランド語の L^AT_EX 用に platex というディレクトリが含まれており、pT_EX の platex と重なります。この問題を避けるために、pT_EX 用のディレクトリを texmf 直下に texmf/ptex と作り、pT_EX ではそちらを優先して使うようにし、teT_EX ライブラリに合わせた形で pT_EX 関連のライブラリをまとめて ptex-texmf-*.tar.gz として配布しています。

このディレクトリ構成は従来のディレクトリ構成と異なっており、L^AT_EX 2_εの*.ins にはディレクトリ名を記述するので、teT_EX 用の配布物とは別に、これまでのように pL^AT_EX 2_εのパッケージを作ると、ディレクトリ名の記述だけが異なり、他は全く同じ 2 種類の配布物が出来上がることになります。この状態は望ましくないもので、T_EX の世界全体が teT_EX にシフトしてきていることも考慮¹、pL^AT_EX 2_εの配布も teT_EX ライブラリ形式での配布形態に絞ることにしました。今後 pL^AT_EX 2_εのバージョンアップは、ptex-texmf*.tar.gz アーカイブに含まれる形で行なうことになります。

4 nidanfloat パッケージの使い方

nidanfloat パッケージは、二段組時に段抜きのフロートをページ下部にも配置できるようにするためのパッケージです。通常は、以下のような使い方になるでしょう。ページ下部に 1 段の幅に収まらない filename.eps を出力する場合です。

```
\documentclass[twocolumn]{jarticle}
\usepackage{graphics}
\usepackage{nidanfloat}
\begin{document}
  < 本文>
\begin{figure*}[b]
\includegraphics{filename.eps}
\caption{キャプション}
\end{figure*}
  < 本文>
\end{document}
```

このように、二段組で \usepackage{nidanfloat} をプリアンプルに指定して、figure 環境のオプションで b を指定します。オプションの意味は、通常の figure

¹例えば、オリジナルの dvips の最新版は teT_EX に含まれるものだけとなっています。

環境と同じです。figure 環境のオプションを指定しない場合は、デフォルトで tb が指定されたものと見なされます。

その他、追加されたパラメータなどに付いては、nidanfloat.dtx をご覧ください。

5 tarticle, tbook, treport で、文頭の全角開き括弧類が下がる問題

tarticle, tbook, treport で、文頭の全角開き括弧類が下がるという現象のご指摘を頂きました。このアキは、\adustbaseline で出力されていたものです。具体的には、\tbaselineshift に 2 度続けて値を指定すると、その後にある全角開き括弧類の前に余分なアキが出力されるようです。\\adustbaseline では、縦組のベースライン位置を補正する際に \tbaselineshift を初期化し、その後に計算値を設定するということをしていたために、その直後に全角開き括弧類がくると余分なアキが出力されていたものです。\\tbaselineshift への連続した値の設定を行わなければこの問題は起きないので、このバージョンで \\adustbaseline の最初で行なっていた \tbaselineshift の初期化を行わないように変更しました。

6 L^AT_EX<2000/06/01> に対応

L^AT_EX のバージョンアップが今回から 1 年毎になりましたので、pL^AT_EX 2_ε の更新も基本的に今後は L^AT_EX に合わせて 1 年毎になります。

7 フォーマットファイル作成時の注意

現在の pT_EX では、8 ビットコードの連続を 16 ビットコードと認識してしまう場合があります。そのため、フランス語やキリル文字などの 8 ビットコードが連続するハイフンパターンはまず使えせん。例えば cmcyralt パッケージでは、途中でつぎのようなエラーになります。

```
(/usr/local/share/texmf/tex/latex/contrib/
```

```
other/cmcyralt/rhyphen.tex Russian hyphenation
! Bad \patterns.
1.107 . え
2
?
```

このときは、“?” のプロンプトに対して “x” で終了してください。残念ながら、このハイフンパターンを pT_EX で利用することはできません。

そこで、hyphen.cfg を用意して、不用意に他のハイフンパターンを読み込まないようにしてあります。詳しくは README2.txt をご覧ください。

8 その他

pT_EX や pL^AT_EX 2_ε に関する最新情報は、pT_EX ホームページ

<http://www.ascii.co.jp/pb/ptex>

より、入手することができます。

バグ報告やお問い合わせなどは、電子メールで

www-ptex@ascii.co.jp

までお願いします。